



並木中等story

令和4年10月18日号

悟り

今日は河合隼雄先生と中沢新一先生が書かれた『ブッダの夢』（朝日新聞社）の内容からです。皆さんは悟りとはどのようなものだと思いますか。私は、何かひらめきみたいなものと思っていました。『ブッダの夢』には次のように書かれています。「悟りというものは、卵の中に雛がいるようなもので、雛が、もう孵化しようかというときに、中から黄色い嘴で、卵をツンツンツンツンとやるんです。そうすると、その気配を察知した親鳥がツンツンツンツンって硬い嘴でつついてくれる。その二つのリズムが合体した時、すっと割れるんだ。悟りとはそういうもんだ。」別の和尚さんにも聞きました。「悟りは急にひらめいたり、気付いたりするものではない。日頃から、気を留めておいたものがあるきっかけで、急に感ずるようになる。」



悟りは簡単には訪れません。日々考えているものがあることをきっかけに感ずるようになるのではないのでしょうか。私は、悟りというより新たな思いつきがよく明け方、眠りが浅いときに起きます。そのため、私はそのことを覚えていられるように枕元には紙とボールペンを置いておき、メモをするようにしています。皆さんによい悟りがありますように！

《祝 高校生理科研究発表大会で4名受賞！》

全国の高校生を対象とした千葉大学主催の令和4年度高校生理科研究発表大会において本校から4名が受賞しました。双葉電子記念財団研究奨励賞4年次遠藤さん、DIC株式会社総合研究所研究奨励賞5年次三浦さん、奨励賞5年次横井さん、山川さんです。おめでとうございます。